

解答紙

(2枚のうち2枚目)

II (60点)

問1	<p>集団のメンバーの役割分担に基づき密 な協力を行うという狩猟採集時代の集 団環境が、自己肯定感や承認欲求や達 成感や満足感を人々の心に生じさせて いったということ。</p>
問2	<p>「仕事を担当する能力はいまひとつだ」と当人がうすう す思うと同時に、自分は出来るという漠然とした信念を 持ちつつ「担当できる」と意欲的にアピールし、また周 りの人々も「そんなに言うのなら」と“フエイク”にだ まされたつもりになって任せてみるという条件。</p>
問3	<p>長老からの励ましの言葉に共感し、自信が持てるよう になり、協力集団形成に成功し、さらに自己を鼓舞して未 知の仕事でも率先して挑戦できるほどの自己肯定感を高 く維持できた背景には、素質があることの根拠がない状 態でも自分の素質を心から信じるということがあった。</p>
問4	<p>協力集団の中で成長し自己肯定感や承認欲求を抱くよう になる人々は、自分について否定的な要素を問う質問に 対しては、自分には否定的な要素があると思いつつも、 その質問を否定することが、平均よりも多くなる。</p>
問5	<p>狩猟採集時代のような密な協力集団が希薄になった、お 金を稼ぐことが個人的な営みになっており周囲の人々と の競争関係が生じやすい現代社会では、自己肯定感を高 めてアピールし、周囲の承認を得るという一連の活動が 一生を通じての仕事上の活動の原理となっているという理由。</p>
問6	<p>生まれ育った協力集団への帰属が希薄となり、複数の集 団に所属していろいろな人々と関わる生活が奨励される 現代社会で、それらの所属集団へのアピール材料である アイデンティティの確立を目指すと、所属する集団ごと に自分らしさをその都度作らねばならず、一貫した自分 らしさを持つてなくなるから。</p>

採点

Score box